

「のり枠工の設計・施工指針」目次項目一覧

第1章 総 則 ①	6.4.2 細骨材 ②
1.1 一 般	6.4.2.1 細骨材の物理的品質
1.2 適用範囲	6.4.2.2 細骨材の粗粒率
1.3 用語の解説	6.4.2.3 細骨材の有害物含有量の限度
	6.4.2.4 細骨材の化学的および物理的安定性
第2章 要求性能	6.4.2.5 海 砂
2.1 のり枠工および中詰材に要求される性能	6.5 水
2.2 のり枠工の要求性能	6.6 混和材
2.2.1 安全性能	6.7 混和剤
2.2.2 第三者影響度に関わる性能	6.8 鉄 筋
2.2.3 耐久性能	6.9 繊維補強材
2.2.4 美観・景観に関わる性能	6.10 金網および吹付枠用型枠
第3章 性能照査	第7章 設 計
3.1 一 般	7.1 設計の原則
3.2 安全性能の照査	7.1.1 構造解析
3.3 第三者影響度の照査	7.1.2 のり枠工の力学的性能の照査
3.4 耐久性能の照査	7.1.3 部分安全係数
3.4.1 一 般	7.2 荷 重
3.4.2 吹付モルタルの耐久性の照査	7.2.1 緑化棚として用いる場合の荷重
3.5 美観・景観の照査	7.2.2 抑制工として用いる場合の荷重
第4章 計画及び調査	7.2.3 抑止工として用いる場合の荷重
4.1 計 画	7.2.4 荷重係数
4.2 調 査	7.3 安全性能の照査
第5章 工法の選定	7.3.1 一 般
5.1 一 般	7.3.2 設計曲げ耐力
5.2 のり枠工の適用範囲	7.3.3 設計せん断耐力
5.3 のり枠工の種類	7.4 使用性能の照査
5.4 のり枠工の工種の選定	7.4.1 曲げひび割れに対する検討
5.5 中詰工の種類	7.4.2 せん断ひび割れに対する検討
5.6 中詰工の選定	7.4.3 変位・変形に対する検討
第6章 材 料	7.5 一般構造細目
6.1 一 般	7.5.1 かぶり
6.2 適用範囲	7.5.2 鉄筋のあき
6.3 セメント	7.5.3 鉄筋の継手
6.4 骨 材	7.5.4 鉄筋の端部
6.4.1 一 般	7.5.5 抑止工を併用した場合ののり枠の端部構造

## 第8章 吹付砕工

③

### 8.1 設 計

- 8.1.1 適用範囲
- 8.1.2 設計の基本
- 8.1.3 吹付モルタルの強度
- 8.1.4 吹付モルタルの弾性係数
- 8.1.5 鉄筋の強度
- 8.1.6 鉄筋の弾性係数
- 8.1.7 軸方向鉄筋（主鉄筋）の継手
- 8.1.8 構造細目
- 8.1.9 吹付モルタルの配合設計

### 8.2 施 工

- 8.2.1 一 般
- 8.2.2 のり面流下水および湧水の処理
- 8.2.3 基面処理と型枠の組立
- 8.2.4 ノズルマンの技量
- 8.2.5 吹付工

### 8.3 施工管理

- 8.3.1 材料管理
- 8.3.2 品質管理

## 第9章 プレキャスト砕工

### 9.1 設 計

- 9.1.1 適用範囲
- 9.1.2 設計の基本
- 9.1.3 横枠の設計
  - 9.1.3.1 荷 重
  - 9.1.3.2 安全性能の照査
- 9.1.4 最下端の縦枠の設計
  - 9.1.4.1 荷 重
  - 9.1.4.2 安全性能の照査

### 9.2 施 工

### 9.3 受入れ検査

### 9.4 施工管理

## 第10章 現場打ちコンクリート砕工

### 10.1 設 計

- 10.1.1 適用範囲
- 10.1.2 設計の基本

### 10.2 施 工

## 第11章 中詰工

④

### 11.1 設 計

- 11.1.1 適用範囲
- 11.1.2 設計の基本

### 11.2 施 工

## 第12章 維持管理

- 12.1 一 般
- 12.2 点 検
- 12.3 のり砕工の維持管理
- 12.4 緑化工の維持管理
- 12.5 のり砕工の点検と評価

## 第13章 安全管理

- 13.1 一 般
- 13.2 施工時の安全管理
- 13.3 維持管理作業時の安全管理

付録－1 吹付砕工の設計例

付録－2 吹付モルタルの配合例

付録－3 吹付砕工設計参考資料

付録－4 調査データ（吹付砕工の圧縮強度、塩化物イオン量、中性化深さ）

付録－5 維持管理補修技術

付録－6 既設吹付けモルタルの耐久性向上試験（例）

付録－7 のり砕工の曲げおよびせん断に関する性能評価

付録－8 中詰工の選定手順（例）

付録－9 施行事例

資料